

進捗状況の概要 【1ページ以内】**【交流プログラムの実施状況】**

「東アジア教員養成国際大学院プログラム」では、東京学芸大学、北京師範大学、ソウル教育大学校との間で教育大学の特色を活かした短期語学・文化研修プログラムや交換留学プログラムなど、多彩な相互交流プログラムを実施し、当初の計画数を上回る交流を実現した。

3大学は覚書等を交わし、およそ2か月に1度は顔をあわせ、お互いの信頼関係を強化し、各大学内の基盤整備も進めながら、着実にダブルディグリー・プログラムの開発に向け、努力を続けてきた。

○日本人学生の派遣

【短期】 ソウル教育大学において、平成29年2月にCAMPUS Asia - Winter Program for Trilateral Cooperation (WPTC) が企画され、東京学芸大学2名と北京師範大学15名の大学院生が2週間ソウルを訪問し、研修プログラムに参加した。北京師範大学では参加学生による報告会も開催された。

また、平成29年度には、夏季・春季にそれぞれ北京・ソウルへの短期語学・文化研修プログラムが企画され、北京には夏季4名、春季6名、ソウルには夏季6名、春季5名の日本人学生が、それぞれ参加した。

平成29年6月にはソウル教育大学主催の東アジア教員養成国際シンポジウムにおいて東京学芸大学所属の修士課程学生1名がポスター発表を行った。

【長期】 東京学芸大学から、平成28年度は北京師範大学に3名（平成29年2月から1年間）を交換留学生として派遣した。平成29年度は、北京師範大学3名（平成29年9月から1年間2名、平成30年2月から6か月1名）、ソウル教育大学3名（平成29年9月から1年間1名、平成30年3月から1年間2名）を含め東アジア教員養成国際コンソーシアム（ICUE）加盟大学に中韓各4名を、それぞれ交換留学生として派遣した。

○外国人留学生の受入

【短期】 東京学芸大学はSummer Program for Trilateral Cooperation (SPTC)を開発し、平成29年7月に中韓の大学院生計10名が来日し、日本の教育について学び、小学校における児童との交流活動や日本文化体験を行った。

【長期】 東京学芸大学では平成28年度、当初の計画を超える9名の中国側ICUE加盟校（うち北京師範大学3名）の学生、2名の韓国側ICUE加盟校等の学生を半年から1年間の交換留学生として受け入れた。平成29年度は中国側ICUE加盟校から19名（うち北京師範大学6名）、韓国側ICUE加盟校から13名（うちソウル教育大学から5名）を同じく交換留学生として受け入れた。

○交流学生の成果発信

平成28年度の交換留学受入れ・派遣学生の研修成果は『研修レポート集』としてまとめられた。

ホームページでは、交換留学で中韓に派遣中の学生が留学通信を定期的に発信する一方、受入れ学生の合宿レポート等も公開されている。

【本事業における中間評価までの交流学生数の計画と実績】

| 平成28年度 | | | | 平成29年度 | | | |
|--------|----|-----|-----|--------|-----|-----|-----|
| 派遣 | | 受入 | | 派遣 | | 受入 | |
| 計画※ | 実績 | 計画※ | 実績 | 計画※ | 実績 | 計画※ | 実績 |
| 6人 | 5人 | 6人 | 14人 | 16人 | 30人 | 16人 | 42人 |

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ以内】

★事業の実質化と高度化

本事業で養成する人材像は、①高度な知識教養に裏打ちされた実践力指導力、②東アジアの学校教育において生起する複雑かつ多様な諸課題への対応力、③日中韓が世界に誇る授業研究力、④東アジアから世界で活躍できる人材に必須の英語力・東アジア2言語を身に付けることである。

この4つの人材像の伸長を目的として、短期プログラム、東アジア教員養成国際コンソーシアム（略称ICUE）シンポジウム等学会における大学院生の研究発表、大学院生の専門性に応じた指導教員の選定と高度な研究指導、半年・1年の長期交換留学を実施してきた。これらは、ICUEで培われた大学間の学生及び教員交流の基盤をもとに実施されている。

本事業では、さらにそれを修士課程レベルでのダブルディグリープログラム（DDP）を通じて、世界で活躍できる高度な力量を備えた学校教員、教育支援人材、スクールリーダー及び大学等における教員の養成に向けた質の高い教育を提供する。



〈受入学生の授業場面 小石川植物園にて〉



〈受入交換留学生最終発表会〉



〈ソウル教育大学への夏季短期留学〉

★国境を超えたキャンパス（履修基盤）の構築

日中韓の教員養成大学の拠点である、東京学芸大学・北京師範大学・ソウル教育大学が、それぞれの大学において、それぞれの大学の特色を生かしたキャンパス・アジア指定科目を制定した。大学院修士課程の学生には、3大学で定めたキャンパス・アジア指定科目の受講を求めている。

IGPTE 大学院修士課程キャンパス・アジア指定科目の例

| 【日本】東京学芸大学 | 【中国】北京師範大学 | 【韓国】ソウル教育大学 |
|---------------|--------------|---------------------|
| 教育制度論演習Ⅰ | 中国古代教師史 | グローバル教育の理解 |
| 教育社会学研究法 | 東アジアの文化と教育 | グローバル文化と国際交流 |
| 多言語多文化教育実践論演習 | 国際理解教育の理論と実践 | 多文化教育プログラム及び教育課程の理解 |
| 教師教育論演習 | 中国文化演習 | 文化間理解教育研究 |

さらに、東京学芸大学においては、キャンパス・アジアの受入れ学生に対し、留学生科目「日本の教育と文化」や「東アジア教師論演習」「アジアの教育演習」といった科目を通じて、人材像育成と学生間の交流に努めている。「日本の教育と文化」では附属学校訪問があり、「東アジア教師論演習」では各自がお世話になった教員への聴き取り調査が含まれるといったように、教員養成の特色を發揮している。

加えて、派遣学生のために、平成29年度から学部正規科目に「学芸フロンティアB」（留学のすすめ）を開設し、留学の意義や計画の立て方等を学ぶ機会を提供している。

また、単位互換については、学修量と単位の関係について、綿密な協議を行った結果、平成30年4月17日に単位互換の覚書を締結するに至った。キャンパス・アジア指定科目の制定と単位互換の確立により、DDP取得を目指す学生の履修基盤が構築された。